

2026年1月22日

「血管内超音波を用いた経皮的冠動脈形成術中の医原性冠動脈入口部解離発生頻度とその  
予後についての検討」について

◆研究の目的と概要◆

心臓カテーテル検査および経皮的冠動脈形成術中に起こりうる合併症のひとつにカテーテルによる医原性冠動脈入口部解離があります。発生頻度は稀ですが、その予後や最適な治療法はほとんどわかっていません。本研究では、冠動脈入口部解離の発生率とその予後および最適な治療法に関して検討を行い、今後のよりよい診療を行うことを目的としています。

◆対象となる患者さん◆

2019年1月から2020年3月までの間に当院で経皮的冠動脈形成術を行った方。

◆研究に使用される情報・試料◆

以下の患者さんの観察、診察および検査を実施し、この研究のデータとして活用します。

- ① 患者さんの背景情報（身長、体重、年齢、性別、心血管病の家族歴、既往歴（糖尿病（インスリン使用の有無）、高脂血症、高血圧、喫煙歴、維持透析、陳旧性心筋梗塞、経皮的冠動脈形成術、冠動脈バイパス術））
- ② 血液学的検査、血液生化学的検査（ヘモグロビン、ヘマトクリット、血小板数、クレアチニン、eGFR、LDL-コレステロール、CK、CK-MB）
- ③ 血管内超音波検査（冠動脈入口部の血管径、内腔およびプラーク量、石灰化の角度）
- ④ 手術中データ（対象血管の性状（屈曲、分岐、石灰化）、病変長、病変分類、使用ガイドカテーテルの種類とサイズ、穿刺部位、デバルキンクデバイスの使用の有無、病名、病変の場所と数、病変長、造影時間、造影剤量）
- ⑤ 手術後の血液生化学的検査（CK、CK-MB）
- ⑥ 転帰（全死亡、心臓死、再血行再建術施行、脳梗塞）

◆試料・情報の研究利用開始日◆

2026年3月3日以降

◆研究方法◆

本研究は過去の診療録（カルテ）等からの情報や諸検査を利用します。-----

- \* 研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者さんを特定できる情報は利用しません。
- \* 本研究に関するお問い合わせや、カルテ情報の利用についてご了承いただけない場合、

以下の問い合わせ先までメールでご連絡ください。ただし、解析中または、既に学会等で発表されたデータについては、削除できないことがありますことをご了承ください。

【問い合わせ先】

公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院

臨床検査技術部心血管カテーテル室 研究責任者 三宅 ひかる

E-mail: kenkyu★kchnet.or.jp (臨床研究センター)

(★を@に変換して使用してください)

この研究課題で利用する残余検体・診療情報等の利用については、医の倫理委員会によって当該既存試料を用いなければ研究の実施が困難であるとの理由が認められ、倫理的観点及び科学的観点から実施についての承認、また当院院長の許可が得られています。

※【問い合わせ先】では、次の事項について受け付けています。

- 研究計画書および研究の方法に関する資料の閲覧（又は入手）ならびにその方法（他の研究対象者の個人情報および知的財産の保護等に支障がない範囲内に限られます。）
- 研究対象者の個人情報についての開示およびその手続
- 研究対象者の個人情報についての利用目的の通知
- 研究対象者の個人情報の開示、訂正等、利用停止等について、請求に応じられない場合にはその理由の説明